

東北の今後の道路政策のあり方」に向けた中間整理

本資料は、平成 14 年 6 月に示された「東北のみちのあり方について(提言)」と、平成 18 年 6 月に示された「今後の道路政策の基本的方向について(論点整理)」及びこれに対する^注東北の意見及び一般世論を対比させ、「東北の今後の道路政策のあり方」の視点(事務案)を体系的に整理したものである。

(なお、本資料の記述内容に関する詳細及び参考データは参考資料 2 に整理した。)

注 「東北の意見」及び「一般世論」に関する資料

「今後の道路政策の基本的方向について(論点整理) 社会資本整備審議会道路分科会」に対する東北各主体のインタビュー調査(H18.10～H18.11 東北地方整備局)

・インタビュー対象者:市町村長、学識経験者、ユーザー団体、道路関係団体、マスコミ関係等
計約 600 名(中間報告)

調 査 内 容 :インタビュー形式による「論点整理」等に対する意見収集

「東北における地方の道路整備に関する意見交換会」(H18.10 東北地方整備局)

意見交換会出席者:(北東北ブロック)代表市町村長 14 名
(南東北ブロック)代表市町村長 13 名

意見交換会内容:地方における道路整備の現状と課題」等に対する意見交換会

「社会資本の効用等に関する意識調査」(H18.2～H18.3 国土交通省)

・アンケート対象者:国民、産業界(経済連合会など)、学会(土木学会、日本建築学会、日本経済学会)
計 1,570 名(東北分)

・アンケート内容:今後の社会資本整備の方針についての考え方」、「今後重点的に取り組むべき政策分野」、「今後の社会資本整備に関する優先度」等について、インターネットおよび郵送にてアンケートを実施

世論調査(H15～H18 内閣府)

道路に関する世論調査(H18.7)他

平成 18 年 11 月 21 日

東北のみちのあり方について (提言)』
(H14.6.17)

今後の道路政策の基本的方向について
(論点整理)』 (H18.6.1)

東北の意見及び一般世論
黒字:インタビュー調査H18.10~11、緑字:意見交換会H18.10
青字:意識調査H18.2~3、茶字:内閣府世論調査H18.7

東北の今後の道路政策のあり方の
視点 (事務案)

序
文
(背景・共通認識)

東北のポテンシャル

- ・広大な国土
- ・豊かな自然環境
- ・歴史ある文化や風土
- ・安全な食料基地・エネルギー基地
- ・ゆとりと癒しの地
- ・新技術の開発・集積
(光通信技術等)

東北の課題

- ・脊梁山脈、峠、豪雪の克服
- ・財政的制約への対応
- ・少子高齢化への対応
- ・地球規模での環境問題への対応
- ・情報技術の飛躍的な発展への対応
- ・身近な暮らしの質の向上や個性ある地域形成を重視する傾向への対応

今後目指すべき社会像

少子高齢化が進む社会においても活力ある国民生活の創造

東アジアの経済成長を生かした国際競争力の強化

安全で安心な社会の実現

地球環境問題への積極的な対応

・今後重点的に取り組むべき政策分野は「少子高齢化対策」
住民 6割、産業界 7割が支持 / 東北

・対東アジア戦略のためにも空港と港湾の連携は必要 (橋梁の 25 対応含む)

・今後重点的に取り組むべき政策分野は「自然災害に対する安全対策」
住民、産業界ともに 6 割が支持 / 東北
・今後重点的に取り組むべき政策分野は「治安対策」
住民、産業界ともに 5 割が支持 / 東北

・今後重点的に取り組むべき政策分野は「地球環境や自然環境の保全」
住民、産業界ともに 5 割が支持 / 東北

序
文
(背景・共通認識)

東北のポテンシャル

- ・広大な国土
- ・豊かな自然環境
- ・歴史ある文化や風土
- ・安全な食料基地・エネルギー基地
- ・ゆとりと癒しの地
- ・新技術の開発・集積
(光通信技術等)

東北の課題

- ・脊梁山脈、峠、豪雪の克服
- ・少子高齢化への対応
- ・東北と近接する東アジアの経済成長を生かした国際競争力の強化
- ・安全で安心な社会の実現
- ・地球規模での環境問題への対応
- ・情報技術の飛躍的な発展への対応
- ・身近な暮らしの質の向上や個性ある地域形成を重視する傾向への対応
- ・財政的制約への対応

東北のみちのあり方について (提言) (H14.6.17)

今後の道路政策の基本的方向について (論点整理) (H18.6.1)

東北の意見及び一般世論
黒字: インタビュー調査 H18.10~11、緑字: 意見交換会 H18.10
 青字: 意識調査 H18.2~3、茶字: 内閣府世論調査 H18.7

東北の今後の道路政策のあり方の視点 (事務案)

提言にあたっての共通認識

東北地方は
 経済を活性化するための道路
 生活を豊かに・便利に・楽しく
 するための道路
 が不十分
 東北地方には、必要性、効率性、
 緊急性の高い、投資に値する多くの
 道路があり、その整備が必要

今後の道路政策に求める
 改革のポイント

高齢化する道路ストックに対応した
 戦略的道路管理

既存ストックの徹底的な利活用

国民とともに進める道路・沿道空間の
 再生

具体的な目標設定によるスピー
 ディーな政策展開

冬期通行止めにならないネットワークが必要
 ・高齢者、緊急医療、雪に対応した道路整備
 が必要 (特に高規格道路ネットワーク、スマ
 ート工など)
 ・冬期の渋滞対策が必要
 ・雪などの地域の実情に配慮すべき
 ・高齢者に配慮した快適で潤いのある街づく
 り、道路空間が必要 (特に冬期に配慮)
 ・冬期交通における事故対策が必要
 歩行者優先 (冬期に配慮)
 インタビュー調査の中から冬期に関する意
 見を抽出したもの

長寿命化に向けた維持管理システムの構築
 (財政、冬期、安全性、道路機能に配慮)
 管理に対する官と民の意識の共有化が必要
 民間活力を利用すべき

歩行者優先 (冬期に配慮)
 時間帯別の道路利用など柔軟な対応が必要
 ・スマート工を整備し、高速道路を有効利用
 高速道路の弾力的な料金体系を導入すべき
 ・小規模な改良 (交差点、隘路、歩道、バリア
 フリー等) が必要
 ・ITS技術の活用が必要
 地域の実情にあった柔軟な道路構造が必要
 地方では活用するための道路が不十分

今後の道路整備のバランスとして、新たな整
 備と既存道路の維持管理をバランスをとりな
 がら進める」を挙げた人が5割、新たな整備
 は最小限にして、既存道路の維持管理を重点
 的に進める」を挙げた人が4割 / 全国

利用者、沿道住民、企業がともに道づくりを
 進めることが重要 (特に雪みち対策)
 ・地域特性、高齢者、景観に配慮した沿道空間
 の再生が必要
 交通以外の人々の生活交流の場の形成が必要
 行政の力強い支援が必要

地域にあった効率的でスピーディーな道路整備
 ・成果目標、供用目標を公表し、確実な事業
 実施が必要
 地方にあった優先順位の設定が必要
 ・国・県・市の連携 (役割分担) が必要
 ・長期ビジョンの共有化が必要
 ・コスト縮減と財源確保が必要
 住民参加が必要 (道路行政に対する住民意識の向上)

視点検討にあたっての共通認識

東北地方は
 経済を活性化するための道路
 が不十分
 生活を豊かに・便利に・楽しく
 するための道路が不十分
**冬期道路交通サービスの確保
 が必要**
 東北地方には、必要性、効率性、
 緊急性の高い、投資に値する多くの
 道路があり、その整備が必要

今後の道路政策に求める
 ポイント

既存道路の戦略的管理及び徹底的な
 活用

道路利用者・地域住民とともに進
 める道路整備」

「スピーディーな政策展開」

今後の道路政策に求めるポイント

東北のみちのあり方について (提言)』
(H14.6.17)

今後の道路政策の基本的方向について
(論点整理)』 (H18.6.1)

東北の意見及び一般世論
黒字:インタビュー調査H18.10~11、緑字:意見交換会H18.10
青字:意識調査H18.2~3、茶字:内閣府世論調査H18.7

東北の今後の道路政策のあり方』の
視点 (事務案)

提
言
1

広域的な交流・連携の促進と、産業経済の再編・発展の基礎的な条件である「高速道路ネットワーク」は不可欠かつ緊急整備
(強い東北』の形成へ)

距離と峠と雪』の克服を可能とする「縦」のネットワーク拡充とグローバル化の観点も含めた「横」のネットワークの整備

投資効果を最大限に発揮するために、不連続な高速道路を連結

整備計画決定済みの高速道路の緊急整備を図るために、現行の有料道路制度を積極的に活用

環境改善、物流効率化、整備区間の有効活用の観点から、弾力的な料金体系を導入

都市間の連絡や空港・港湾との連結など、国際比較の視点も踏まえたサービス水準目標設定

既存ネットワークを最大限に活用するための、通行料金による交通需要の調整手法の導入

新たな国土計画に対応した道路整備 (既存ネットワークを最大限に活用、現道の機能強化・活用を含む)

広域ブロック単位で段階的な道路整備を計画

対東アジア戦略のためにも空港と港湾の連携は必要 (橋梁の25対応含む)
・生活、産業、地域医療等を支援する高速ネットワーク整備は必要
・スマート工設置が必要
速達性を確保できる広域幹線道路網整備が必要 (市町村合併支援を含む)

今後の社会資本整備に関する優先は「国際競争力の確保・強化」
住民5割、産業界9割が支持 / 東北
今後の社会資本整備に関する優先は「国内の広域交通網の強化による移動・交流の効率化」
住民4割、産業界8割が支持 / 東北

早期整備のために、規格、構造を見直してでも高速ネットワークは必要
・不連続なネットワークの連結が必要
高速ネットワークはつながってこそ効果を発揮
・りっぱな一般道路などを活用しながら、当面の高速ネットワークの早期整備が必要

今後高まるアジア等との交流の観点から移動コストの低減が必要

長期ビジョンの共有化が必要

東北全体で事業調整を行うべき

視
点
1

広域的な交流・連携の促進と、産業経済の再編・発展の基礎的な条件である「高速道路ネットワーク」は不可欠かつ緊急整備
(強い東北』の形成へ)

距離と峠と雪』の克服を可能とし、かつ東アジアの経済成長を生かし、環日本海ひいては東北全体の国際競争力を高めるための「縦」のネットワーク拡充と「横」のネットワークの整備
産業の国際化に向け、国際標準コンテナの通行を可能とする国際物流基幹ネットワークの整備

広域的な交流・連携および救急医療等の支援と既存道路の有効活用のための、緊急退出路やスマート工の整備

整備効果の早期発現のために、不連続な高速道路を連結するとともに、既存道路を活用したサービス水準の高いネットワークを構築

採算性が悪くとも緊急性の高い整備計画決定済みの高速道路については、新直轄方式などによる整備手法も積極的に活用

環境改善、物流効率化、整備区間の有効活用の観点から、弾力的な料金体系を導入

新たな国土計画に対応した道路整備

東北の一体的な発展を目指すために、広域ブロック単位で段階的な道路整備を計画

東北のみちのあり方について(提言)
(H14.6.17)

今後の道路政策の基本的方向について
(論点整理) (H18.6.1)

東北の意見及び一般世論
黒字:インタビュー調査H18.10~11、緑字:意見交換会H18.10
青字:意識調査H18.2~3、茶字:内閣府世論調査H18.7

東北の今後の道路政策のあり方の
視点(事務案)

提言
2

視点
2

個性と活力のある地域づくり
(画一的な地域・まちから「東北らしい地域・まち」の再生へ)

自立した広域的な地域づくりに向けた幹線道路ネットワークの整備

自然や環境との共生、職住近接、土地利用の高度化などにより効率的で持続可能なコンパクトシティの整備とコンパクトシティ相互間を連携する道路整備

高速道路から市町村道まで一体的で階層性を有するネットワーク整備

市町村合併の地域での一体性を高めるためのネットワークの強化

人口の少ない地域での安全で安心な生活を確保できる一定水準の交通サービスの確保

人口の少ない地域でのライフラインとなる道路水準の検討

国道、県道、市町村道の機能を検証し、連携することが必要
市町村道等との一体的な道路整備が必要
生活道路と幹線道路の使い分けが必要
冬期通行止めにならないネットワークが必要

市町村合併を支援するネットワーク整備は不可欠
速達性を確保できる広域幹線道路網整備が必要(市町村合併支援を含む)

今後の社会資本整備に関する優先は「集落・地域の自立」
住民4割、産業界8割が支持 / 東北
今後の社会資本整備に関する優先は「地域活性化」
住民7割、産業界9割が支持 / 東北
活力ある地域づくりのための道路整備として、「周辺市町村への通勤を容易にする生活道路の整備」、「気軽に散策を楽しめる歩道や歩行者専用道路の整備」を挙げた人が4割、「大きな病院や商業施設等をいくつかの市町村で共同利用できる道路の整備」を挙げた人が3割 / 全国

中心市街地活性化のために郊外人口を市街地に誘導する都市計画が必要

今後の社会資本整備に関する優先は「都市・中心市街の再生」
住民4割、産業界9割が支持 / 東北

個性と活力のある地域づくり
(画一的な地域・まちから「東北らしい地域・まち」の再生へ)

自立した広域的な地域づくりに向けた幹線道路ネットワークの整備とともに、**幹線道路以外も含めた全ての道路について一体的で階層性を有するネットワークの整備**

市町村合併の地域での**一体性を高めるためのネットワーク強化**

人口の少ない地域での**安全で安心な生活を確保できる道路交通サービスの提供**

自然や環境との共生、職住近接、土地利用の高度化などにより効率的で持続可能なコンパクトシティの整備とコンパクトシティ相互間を連携する道路整備

東北のみちのあり方について(提言)
(H14.6.17)

今後の道路政策の基本的方向について
(論点整理) (H18.6.1)

東北の意見及び一般世論

黒字:インタビュー調査H18.10~11、緑字:意見交換会H18.10
青字:意識調査H18.2~3、茶字:内閣府世論調査H18.7

東北の今後の道路政策のあり方の
視点(事務案)

提言
2

視点
2

バイパス 環状道路等の整備、TDM施策やマルチモーダル施策による都市交通サービスの円滑化

大都市圏の環状道路の整備は最優先

都市圏ごとの明確な交通戦略の作成

ボトルネック箇所など、ポイントを絞った対策の実施

実効的なTDMの促進

交通戦略やTDM施策の実施に対する住民・利用者の合意を得る仕組みを導入

住民の交通行動に影響を与えるための複数施策の集中的な実施による、短期間でモデル的な成果をあげる取り組み

・大都市圏よりも地方の道路整備を優先すべき

・環状道路などネットワーク整備が必要
・朝夕通勤時の渋滞対策が必要
・主要渋滞交差点の対策(改良、信号調整)が必要
・主要な幹線道路の連続立体化が必要
・冬期の渋滞対策が必要
・公共交通機関の整備や連携が必要(高齢者など交通弱者にも配慮)
・都市部で公共交通施策を展開するためには、道路と鉄道の相互乗り入れをすべき
・雪などの地域の実情に配慮すべき

・利用者の目的、内容を分析し、ポイントを絞った対策を実施すべき
・朝夕通勤時の渋滞対策が必要
・主要渋滞交差点の対策(改良、信号調整)が必要
・主要幹線道路の連続立体化が必要

今後の社会資本整備に関する優先は「都市交通の円滑化」
住民4割、産業界8割が支持/東北渋滞の解決方法として、「車線数を増やす」、「信号のサイクル調整」を挙げた人が3割/全国

・交通需要の調整に対して、公共交通機関の活用が重要
・ハード施策だけでなくTDMなどソフト施策との組み合わせが重要
・工事規制の工夫が必要

・地域の声をくみ上げる仕組みが必要
・時差出勤など道路利用者の利用意識の改善が有効
・TDM施策などに対する市民への啓発、意識の改革が必要
・ディーゼル対策、エコ意識への訴えかけやモラル向上も大事

各都市圏で地域特性などを考慮した地域独自の交通戦略の立案

交通戦略に基づく優先順位の明確化と重点的・計画的な対策の実施

バイパス 環状道路の整備による都市交通サービスの円滑化

モビリティマネジメント、社会実験などの住民・利用者の合意形成による都市交通サービスの円滑化

IT技術を活用した実効的なTDMによる都市交通サービスの円滑化

東北のみちのあり方について (提言)
(H14.6.17)

今後の道路政策の基本的方向について
(論点整理) (H18.6.1)

東北の意見及び一般世論
黒字 インタビュー調査 H18.10~11、緑字 意見交換会 H18.10
青字 意識調査 H18.2~3、茶字 内閣府世論調査 H18.7

東北の今後の道路政策のあり方の
視点 (事務案)

提言
2

視点
2

既存道路の道路空間の再構築

冬期も含め、歩行者や自転車が安心して快適に通行可能な、高齢者や身障者に配慮した生活道路の整備

ITS技術の開発と活用

大型施設立地に際し、交通アセスメントを導入

駐車場や貨物車の荷捌きスペースの確保

既存ネットワークを最大限に活用するための、通行料金による交通需要の調整手法の導入 (再掲)

公共交通を中心とする交通体系を目指す地区での歩行者空間や、自転車・公共交通のための空間拡大方策の活用

公共交通を中心とする交通体系を目指す地区での自動車流入抑制のための規制等の活用

自動車交通以外の空間の美しさやバリアフリーなどの快適性を重視

公共交通の導入・維持に、公的資金の投入検討

- ・ITS技術の活用が必要
- ・IT技術への積極的な投資が必要
- ・利用したい道路交通システム (ITS) として、「運転中に道路交通情報を入手」を挙げた人が5割、「走行中に前方の路面状況や気象状況を画像で受信」、「走行中に携帯電話などで目的地への案内や災害時の避難場所までの誘導」を挙げた人が3割 / 全国
- ・大型施設立地に併せた対策が必要
- ・荷捌きスペースの確保が重要
- ・高速道路の料金割引による利用率の向上が必要 (ETC割引含む)
- ・ETC利用者の利用機会について、「ETC利用割引を利用することで利用機会が増えた」人が3割 / 全国
- ・人中心、生活中心の空間整備が必要
- ・イベント、広場など交流の場としての活用が大切
- ・駐車場の確保が必要
- ・中心部への車両規制が必要
- ・自転車や公共交通機関の利用環境を向上すべき
- ・高齢者に配慮した快適で潤いのある街づくり、道路空間が必要 (特に冬期に配慮)
- ・高齢者に配慮した歩行空間が必要
- ・今後の社会資本整備に関する優先は「バリアフリーのまちづくり」
- ・住民6割、産業界9割が支持 / 東北
- ・高齢歩行者等に対する配慮すべきこととして、「歩道の段差・傾きの減少」を挙げた人が6割、「歩道の設置」、「車いすでもすれ違えるよう歩道を拡幅」を挙げた人が5割 / 全国
- ・道路行政を進めるに当たって重要なこととして、「歩道の設置や拡幅、段差解消など」を挙げた人が5割 / 全国
- ・公共交通の維持へ、公的資金の投入も必要
- ・路線バスの補助のあり方を検討すべき

大型施設立地に際し、交通アセスメントを導入するとともに、必要に応じて貨物車の荷捌きスペースを確保し、地域特性を考慮した運用方法を検討

高速道路の料金割引 (ETC割引) 等による利用率の向上

冬期も含め、高齢者や障害者に配慮し、歩行者、自転車、公共交通機関などの道路空間を再構築

デマンドバスなど公共交通の導入・維持のための運営方針の検討

東北のみちのあり方について(提言)
(H14.6.17)

今後の道路政策の基本的方向について
(論点整理) (H18.6.1)

東北の意見及び一般世論

黒字:インタビュー調査H18.10~11、緑字:意見交換会H18.10
青字:意識調査H18.2~3、茶字:内閣府世論調査H18.7

東北の今後の道路政策のあり方」の
視点(事務案)

提言
3

心から安心できる生活環境
(「道路防災」から「くらしの安全」の
確保へ)

最低限「命を守る道路」は必要

高齢者や身障者等に配慮した各種道路整備
や交通安全対策の推進

人口の少ない地域での安全で安心な生活を
確保できる一定水準の交通サービスの確保
(再掲)

人口の少ない地域でのライフラインとなる道路
水準の検討(再掲)

生活道路における人優先の安全・安心で快適な
歩行空間の整備

幹線道路における事故多発箇所対策

・高齢者、救急医療、雪に対応した道路整備
が必要(特に高規格道路ネットワーク、スマ
ート工など)
・市民の生命・財産を守るための道路整備が
最優先
生活面、医療面からみた道路整備が必要

・人優先の歩行空間の整備が必要(高齢者・
児童などの交通弱者に配慮)
歩行者の安全を確保するために生活道路の
通過交通抑制が必要

今後の社会資本整備に関する優先は「バリア
フリーのまちづくり」
住民6割、産業界9割が支持/東北
・高齢歩行者等に対する配慮すべきこととし
て、「歩道の段差・傾きの減少」を挙げた人が
6割、「歩道の設置」、「車いすでもすれ違え
るよう歩道を拡幅」を挙げた人が5割/全国
・道路行政を進めるに当たって重要なこととし
て、「歩道の設置や拡幅、段差解消など」を
挙げた人が5割/全国

事故多発箇所対策(原因追及・改善)が重要

視点
3

心から安心できる生活環境
(「道路防災」から「くらしの安全」の
確保へ)

最低限「命を守る道路」は必要

生活道路における高齢者や障害者等に配
慮した人優先の安全・安心で快適な歩行
空間の確保(バリアフリー施策など)

幹線道路におけるゆずりあい車線など高齢
者や障害者等に配慮した道路整備や交通
安全対策、「もしもピット」の整備、事故多
発箇所対策

東北のみちのあり方について(提言)
(H14.6.17)

今後の道路政策の基本的方向について
(論点整理)」(H18.6.1)

東北の意見及び一般世論
黒字:インタビュー調査H18.10~11、緑字:意見交換会H18.10
青字:意識調査H18.2~3、茶字:内閣府世論調査H18.7

東北の今後の道路政策のあり方」の
視点(事務案)

提言
3

視点
3

都市における緊急車両等の通行の確保、
火災時の延焼防止等のための防災空間の
確保

自然災害時における緊急輸送道路や代替
路の確保のため、格子型の高速道路ネット
ワーク等の道路網の形成が不可欠

科学的分析に基づく交通事故対策

密集市街地における防災安全性向上のた
めの都市計画道路および市街地整備の促
進

交通機能の確保と情報通信ネットワークの
信頼性向上等に向けた無電柱化

緊急輸送道路などを重点的に整備

・冬期交通における事故対策が必要
・高齢者ドライバー等に配慮したゆずりあい車
線や休憩施設の整備が必要
・高齢者に配慮した低速車レーンが必要
・渋滞対策により交通事故が減少
・公共交通機関の利用促進
・交通安全について学校教育との連携が必要
・ドライバーのマナー向上が必要

・今後の社会資本整備に関する優先は「交通
安全対策」
住民6割、産業界ほぼ全体が支持/東北
道路の安全性向上のための対策として、「歩
道の設置、道路拡幅等」を挙げた人が5割、
「事故の多い交差点の右折車線設置」を挙げ
た人が4割/全国
・道路行政を進めるに当たって重要なこととし
て、「狭幅員道路や急カーブの改良」を挙げ
た人が5割/全国

密集市街地における無電柱化された都市計
画道路整備や防災空間の確保が必要

交通機能確保のための無電柱化が必要

・災害時の緊急輸送道路が必要
・代替路、迂回路の整備が必要
・陸・空との連携が必要
・災害時における代替路線が必要

今後の社会資本整備に関する優先は「氷害・
土砂災害・地震災害等の自然災害対策」を
住民約8割、産業界ほぼ全体が支持/東北
・災害発生時の対策として、「避難路の整備」
・救急活動や救援物資等の輸送のために必
要な道路整備」を挙げた人が5割/全国
・災害時における不便な内容として、「緊急・救
急車両の到着の遅れ」を挙げた人が7割、
「避難先への移動障害」、「物資輸送の遅
延」、「日用品の買物障害」を挙げた人が4割
/全国
・道路行政を進めるに当たって重要なこととし
て、「大雨・大雪や地震など災害への対策」を
挙げた人が4割/全国

科学的分析に基づく交通事故対策

密集市街地における防災安全性の向上の
ための都市計画道路および市街地整備の
促進と、災害時における交通機能の確保等
に向けた無電柱化

自然災害時における緊急輸送道路や代替
路の確保のため、格子型の高速道路ネット
ワーク等の道路網の形成が不可欠

東北のみちのあり方について(提言)
(H14.6.17)

今後の道路政策の基本的方向について
(論点整理)」(H18.6.1)

東北の意見及び一般世論
黒字:インタビュー調査H18.10~11、緑字:意見交換会H18.10
青字:意識調査H18.2~3、茶字:内閣府世論調査H18.7

東北の今後の道路政策のあり方」の
視点(事務案)

提
言
3

視
点
3

関係機関と一体となった、危機管理、道路
交通管理等のソフト施策の推進

冬期の社会経済活動や生活面への影響を
軽減するため、雪氷対策・ITS等の技術開
発、冬期交通の確保、雪情報提供などの推
進

防災に関する道路整備水準と事業量の明
確化

災害時における危機管理体制の確立

安全保障上の道路ネットワークの意義を考
慮

災害発生時の危機管理体制の確立が必要
道路沿いに「道の駅」などの避難所がもっと
必要

災害発生時の対策として、「情報システムの
整備」を挙げた人が4割/全国

安全保障上の道路整備が必要

今後の社会資本整備に関する優先は「犯罪・
テロ等に対する取組み」
住民6割、産業界ほぼ全体が支持/東北

冬期交通の確保が必要
冬期通行止めにならないネットワークが必要
冬期道路交通サービスを確保するために、
道幅を広げる除雪方法やそのための道路
構造を考えるべき

防災に関する道路整備水準と事業量の明
確化

関係機関と一体となった危機管理体制の確
立とともに、震災時における**防災拠点として
の道の駅の活用**とそれに向けた**整備**

国民の安全保障上の道路ネットワークの意
義を考慮

冬期の社会経済活動や生活面への影響を
軽減するため、雪氷対策・ITS等の技術開
発、冬期交通の確保、雪情報提供などを推
進するとともに、**冬期道路交通のサービス
水準を検討**

冬期道路交通サービスの確保のための道
路構造の検討

「今後の道路政策に求めるポイント」(既
存道路の戦略的管理及び徹底的な活用)
(P2)に含まれる

東北のみちのあり方について(提言)
(H14.6.17)

今後の道路政策の基本的方向について
(論点整理) (H18.6.1)

東北の意見及び一般世論

黒字:インタビュー調査H18.10~11、緑字:意見交換会H18.10
青字:意識調査H18.2~3、茶字:内閣府世論調査H18.7

東北の今後の道路政策のあり方の
視点(事務案)

既存の枠組みを越えた人流・物流・情報
の効率化
(「車の流れ」から「人・物の情報の
流れ」の効率向上へ)

国際化に対応するため、高速道路ネット
ワーク整備と、これらと港湾・空港との連結強
化を図るアクセス道路整備

首都圏等へ食料を安定供給していくための
システム構築

公共交通機関との役割分担を考慮したマ
ルチモーダルの推進による総合交通体系
の構築

長い距離と時間を克服するために、道路管
理用の光ファイバーネットワークの整備と
光ファイバーの民間開放

下水道、河川等の光ファイバーネットワ
ーク整備による情報の流れの効率化

安全、円滑、快適な道路交通サービスを提供
するために関係機関等の連携による ITS
施策を推進

効率的かつスピーディに交通サービスを提供
するために、省庁間の縦割りを廃止し、
交通や物流の結節機能の強化など横断的
な連携施策を展開

都市間の連絡や空港・港湾との連絡など、
国際比較の視点も踏まえたサービス水準目
標設定(再掲)

都市圏ごとの明確な交通戦略の作成(再
掲)

従来の行政機関の枠組みや官民の境界を
越えた取り組みの実施による利用者ニーズ
に合った施策展開

対東アジア戦略のためにも空港と港湾の連
携は必要(橋梁の25対応含む)
連続立体化などノンストップで走れる都市間
道路が必要

・首都圏への食材提供等全国的なネットワ
ーク整備が必要
・「地方」にあるものは「都市にも提供する」と
いう観点からアクセス道路の整備が必要

・今後の社会資本整備に関する優先は「食
料・エネルギー・水の安定供給」
住民7割、産業界9割が支持/東北

・公共交通機関の整備や連携が必要(高齢者
など交通弱者にも配慮)

地方のための ITS活用で格差解消

・スピーディな政策展開と整備が必要
道路行政と運輸行政、道路管理者と交通管
理者などの行政機関の連携が必要

「今後の道路政策に求めるポイント」や
視点に含まれる

人流・物流の効率化を図るために、港湾・
空港へのアクセス強化を図る道路整備
視点1(P3)に移行)

首都圏等へ食料を安定供給していくための
システム構築
視点1(P3)に移行)

視点2(P5)に含まれる)

道路管理用の光ファイバーネットワークの
民間開放とともに、利用の高度化の検討

「今後の道路政策に求めるポイント」(既存
道路の戦略的管理及び徹底的な活用)(P2)
に移行

視点2(P6)、3(P9)に含まれる)

「今後の道路政策に求めるポイント」(スピ
ーディな政策展開)(P2)に含まれる

東北のみちのあり方について(提言)
(H14.6.17)

今後の道路政策の基本的方向について
(論点整理) (H18.6.1)

東北の意見及び一般世論

黒字:インタビュー調査H18.10~11、緑字:意見交換会H18.10
青字:意識調査H18.2~3、茶字:内閣府世論調査H18.7

東北の今後の道路政策のあり方の
視点(事務案)

提言
5

次世代につながる地球環境と美しい風景
(「環境への配慮」から「美しい環境
との調和、景観づくり」へ)

地球環境の保全、沿道環境の改善のため
に省エネ車の技術革新への期待とTDM、
マルチモーダルなど道路交通円滑化を推
進

沿道騒音の改善のための低騒音舗装や遮
音壁などの整備

風景や景観等の保全、多彩な観光のため、
それらと調和の取れた道路整備とともに、
沿道の風景保全や景観規制への取り組み

渋滞対策などCO2の削減施策の実施

バイパスや遮音壁等の対策に加え、貨物
車の流入規制などの交通運用面からの対
策も導入

地域の活性化や美しい国土づくりに向けた
日本風景街道(シーニック・バイウェイ・ジャ
パン)の促進など沿道、地域、道路が一体
となった新しい価値の創造

視点
4

次世代につながる地球環境と美しい風景
(「環境への配慮」から「美しい環境
との調和、景観づくり」へ)

地球環境保全のためのCO2削減に向けた
渋滞対策や、エコドライブ・高速道路利用促
進など国民と連携した取り組みであるエコロ
ードの推進

沿道騒音の改善のための低騒音舗装や遮
音壁などの整備

地域の活性化や美しい国土づくりに向けた
日本風景街道の促進など沿道、地域、道
路が一体となった新しい価値の創造

公共交通機関と自動車の使い分けが必要
道路行政と車両メーカーが連携した取り組み
が必要(ITS,ソーラーカーなど)
公共交通機関と連携した総合交通体系が必
要
エコドライブなどの啓発活動等の社会活動が
必要
CO2削減のために自動車交通の抑制が必
要
時間帯による貨物車の流入規制等が必要
渋滞対策の促進
道路の沿道緑化

今後の社会資本整備に関する優先は「自然
環境の保全・再生」
住民6割、産業界ほぼ全体が支持/東北
CO2削減対策として、「CO2排出の少ない車
の普及促進」が6割、「緑化推進」、「エコライ
ブなどの啓発活動」を挙げた人が4割/全国

今後の社会資本整備に関する優先は「居住
環境・生活環境の改善」
住民5割、産業界9割が支持/東北
自動車による大気汚染・騒音・振動等の迷惑
をなくす対策として、「低公害車の普及促進」
を挙げた人が5割、「公共交通機関の利用促
進」を挙げた人が3割/全国
道路行政を進めるに当たって重要なこととし
て、「騒音や大気汚染などへの環境対策」を
挙げた人が3割/全国

道路空間と沿道空間の一体的な利用および
仕組みづくりが必要(日本風景街道の取り組
みなど)
無電柱化や建築物との調和を図り、歴史な
ど地域の特徴を生かすことが必要
景観を損なわないルート選定が必要
地域にあった道路標識などデザインを考慮
すべき
山村地域や森林を守るための道路が必要
地域社会全体や国土の保全という観点から
みた道路整備が必要

東北のみちのあり方について(提言)
(H14.6.17)

今後の道路政策の基本的方向について
(論点整理)」(H18.6.1)

東北の意見及び一般世論

黒字:インタビュー調査H18.10~11、緑字:意見交換会H18.10
青字:意識調査H18.2~3、茶字:内閣府世論調査H18.7

東北の今後の道路政策のあり方」の
視点(事務案)

提言
5

視点
4

街の賑わいや観光を演出するための建築物と一体となった、景観や街並みを形成する道路整備

循環型社会の確立のため、資源の有効活用、リサイクル、クリーンエネルギーの利活用

景観創造事業などのための新たな評価尺度の設定

まちの魅力を高めるための道路空間と沿道空間の一体的な利用

まちづくりや観光に資する観点から道路施設を文化資産として道路整備

無電柱化推進のための有効な措置

沿道景観の改善のための道路利用者や沿道住民のマナー向上

観光振興へ向けた道路行政の支援

観光地アクセス向上、道路と沿道が形成する観光資源の整備、観光地の再開発、情報発信等について積極的な施策展開

景観に対しては評価を正しくすべき

無電柱化や建築物との調和を図り、歴史など地域の特徴を生かすことが必要

地域にあった道路標識などデザインを考慮すべき

道路空間の快適な利用において重要なこととして、「電柱の地中化による景観向上」を挙げた人が5割/全国

利用者・沿道住民のマナー向上

道路空間の快適な利用において重要なこととして、「違法設置の看板や放置自転車の撤去」を挙げた人が5割/全国

観光は産業振興につながり重要なテーマ
地域の魅力づくりが大切

観光地へのアクセス向上(冬期アクセス向上や高速ネットワークが必要)
道路標識、案内板の工夫が必要
散策路など歩いて楽しめる観光支援方策が必要
観光資源の情報発信が必要
道の駅や休憩施設の整備が必要

地域の新エネルギー、地元の資材を活用すべき

今後の社会資本整備に関する優先は「地球温暖化対策やリサイクル促進等による持続可能な社会の形成」
住民7割、産業界ほぼ全体が支持/東北

景観づくりや街並み再生など、道路と周辺地域の価値を高めるための取り組みに対する新たな評価尺度の設定

まちの魅力や観光を演出するための道路空間の一体的な利用や道路施設の文化資産としての整備と景観に配慮した無電柱化の推進

利用者のマナー向上や無秩序な沿道景観の改善

東北の豊かな自然環境、歴史ある文化や風土などを生かした、観光振興へ向けた道路行政の支援

観光地アクセス向上、道路と沿道が形成する観光資源の整備、安全・安心に観光が楽しめる、情報を共有化できる「走りやすさマップ」、「とるば」施策、情報発信等について積極的な施策展開

循環型社会の確立のため、地域特性を生かした資源の有効活用、リサイクル、クリーンエネルギーの利活用

東北のみちのあり方について(提言)
(H14.6.17)

今後の道路政策の基本的方向について
(論点整理)」(H18.6.1)

東北の意見及び一般世論
黒字:インタビュー調査H18.10~11、緑字:意見交換会H18.10
青字:意識調査H18.2~3、茶字:内閣府世論調査H18.7

東北の今後の道路政策のあり方」の
視点(事務案)

提言
6

事業のスピードアップ
(「目にみえる道路行政」の実現へ)

早期供用やコスト縮減のために時間管理の
概念を導入

事業のスピードアップを図るための東北独
自仕様の基準策定や、整備優先区間の明
確化

- スケジュール管理や事業管理について責任
意識を高める仕組みの導入
- 用地取得の迅速化を図るために、土地収用
制度を積極的に活用
- コスト縮減のために契約方法の改善、新技
術の開発、新たな技術を活用した計画や見
直しを実施
- 道路交通障害の短期解消を図るために工
期短縮を実施

- 道路交通障害の短期解消を図るために工
期短縮を実施
- 技術立国として、幅広い技術を道路政策に
活用
- 技術の革新と普及を踏まえた対応
- 安全の確保に必要な技術の継承について
検討

- スピーディな施策展開と整備が必要
- 道路行政と運輸行政、道路管理者と交通管
理者などの行政機関の連携が必要
- 道路特定財源の堅持

- 道路整備の車利用者の費用負担の考え方
に対して、「やむを得ない」が6割、「適切で
ある」が2割、計8割の人が許容/全国
- 地域にあった道路づくりと柔軟な対応により
コストを下げる工夫が必要

「今後の道路政策に求めるポイント」に
移行

早期供用やコスト縮減のために、時間管理
概念の浸透、契約方法の改善、新技術の
開発、新たな技術を活用した計画や見直し

「今後の道路政策に求めるポイント」(スピ
ーディな政策展開)(P2)に移行

「今後の道路政策に求めるポイント」(スピ
ーディな政策展開)(P2)に含まれる

東北のみちのあり方について(提言)
(H14.6.17)

今後の道路政策の基本的方向について
(論点整理) (H18.6.1)

東北の意見及び一般世論

黒字:インタビュー調査H18.10~11、緑字:意見交換会H18.10
青字:意識調査H18.2~3、茶字:内閣府世論調査H18.7

東北の今後の道路政策のあり方
の視点(事務案)

提言
7

道路利用者・地域住民の皆さまとともに
考え、ともに進める
(「徹底したエンドユーザー志向」へ)

道路行政に関する情報公開とP活動の推
進とアカウントビリティの向上

事業のわかりやすい目標設定と実績測定

NPOなど多様な主体と連携を図りながらの
地域住民と一体となった道路整備や道路管
理、迷惑行為に対する道路利用のモラル向
上

説明責任の向上のため、実施すべき施策・
整備目標・事業量の明確化

現行の道路特定財源制度に対する国民の
理解が得られる体系を整備

Pプロセス、ボランティア・サポート・プロ
グラムの充実、市民団体などとの「対話と協
働」、「参加と責任」を取り入れた道路政策
の推進

道路に向けられる批判に対応するため、道
路整備の効果を客観的に検証

事業効果の的確な分析と説明

Pプロセス、ボランティア・サポート・プロ
グラムの充実、市民団体などとの「対話と協
働」、「参加と責任」を取り入れた道路政策
の推進(再掲)

交通影響最小化とトータルコスト抑制など戦
略的な道路管理による長寿命化

計画的な道路管理の組織と技術者の充実

維持管理体系や予算体系の整備

道路管理に対する国の技術的支援

日常の維持管理のコスト削減

住民・市民から理解・共感が得られる説明が
大切
・長期的な視点が必要
・市民と連携した道路行政が必要
・アンケート等により、多くの意見を聞き
設計の前段で地域の意見を聞くことが大事
・長期的な視点で日本全体の国力を高めてい
く議論が必要

都市と地方における道路の必要性や、機能・
役割の違いについて共通認識を持つべき

道路整備の進捗がみえるようにすべき
事業評価の厳格な実施

住民・市民から理解・共感が得られる説明が
大切
・市民と連携した道路行政が必要

総合的な維持管理システムが必要

維持管理に対する技術者の育成が大事
維持管理に対する意識が重要

維持管理費用の拡大が懸念
維持管理に対する補助金制度の導入が必要
道路維持管理が困難(特に雪害地域)

耐久性のある構造物や新材料の開発が必要

道路清掃、除草、雪対策の対応が重要
沿道の美化など沿線住民との協力体制の確
立やボランティアの育成が必要

道路空間の快適な利用において重要なことと
して、「草木の管理、清掃などの美化活動を
地域住民の参加を得て行う」を挙げた人が5
割/全国

「今後の道路政策に求めるポイント」
に移行

道路行政に関する情報公開とP活動の推
進とアカウントビリティの向上

「今後の道路政策に求めるポイント」(道路
利用者・地域住民とともに進める道路整備)
(P2)に移行

事業のわかりやすい目標設定と実績測定

「今後の道路政策に求めるポイント」(道路
利用者・地域住民とともに進める道路整備)
(P2)に移行

NPOなど多様な主体と連携を図りながらの
地域住民と一体となった道路整備や道路管
理、迷惑行為に対する道路利用のモラル向上

「今後の道路政策に求めるポイント」(道路
利用者・地域住民とともに進める道路整備)
(P2)に移行

交通影響最小化とトータルコスト抑制など
戦略的な道路管理による長寿命化
計画的な道路管理の組織と技術者の充実
維持管理体系や予算体系の整備
道路管理に対する国の技術的支援
日常の維持管理のコスト削減

以上の道路管理については、「今後の道路
政策に求めるポイント」(既存道路の戦略
的管理及び徹底的な活用)(P2)に移行